

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	博物館情報・メディア論					授業形態	講義		
科目コード	710106	単位数	2単位	配当学年	3年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	武田 信也								
授業概要	博物館、資料館においては、過去を記録したメディア（史料や資料）を扱い、主に展示という形で発信を行っているが、個人の情報収集能力や発信力が高まる中で、学芸員は立ち位置をどこに求めるか問われている。また、館の活動周知のためにはメディアとしてのマスコミの力を借りており、どのような関係を構築するかということも重要である。本講義では、これまでの経験を踏まえて、博物館の学芸員の立ち位置で、関係するメディアの諸相を考え、今後あるべき学芸員の姿を検討する。								
関連する科目	3年次開講の科目として理解を深めるために、学芸員資格取得に関する科目（必修科目）のうち、基礎的な2年次開講の科目を履修しておくことが望ましい。また他の3年次開講科目を履修することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	前半はメディアとしての史料（資料）の特性と展示制作での利用方法を考え、後半は、展示の実践例を見ながらあるべき展示の姿を考えて行く。展示史料を深く読み込み、伝えるべき情報を引き出す技法や能力を養うことを予定している。講義では、様々な資料データベースを紹介する予定であるが、講義の後には各自が実際にアクセスし、卒業研究等のツールとして活用できるようにしてもらいたい。信頼のおける情報源にアクセスできるようにすることも本講義の主眼である。								
授業計画 【第1回】	メディアとしての博物館展示 ○動物園、植物園、美術館、博物館、資料館 ○本授業の内容説明								
授業計画 【第2回】	博物館における情報・メディアと学芸員 ○史料は過去を知るメディアである ○介在者としての学芸員とデジタルアーカイブ ○学芸員は何のために存在するのか								
授業計画 【第3回】	博物館における情報・メディア整理 ○資料整理は展示と表裏一体 ○都城島津家史料目録調査、佐土原島津家文庫の整理から								
授業計画 【第4回】	メディアとしての文字史料と特性 ○展示メディアの主役 ○低下する日本人のリテラシー能力								
授業計画 【第5回】	メディアとしての非文字資料と特性 ○生き字引が消える時 ○オーラルヒストリー								
授業計画 【第6回】	メディアとしての画像資料と特性 ○画像には文字情報が必要 ○画像資料の分かりやすさは両刃の剣								
授業計画 【第7回】	メディアリテラシーを考えるその1 ○文字史料								
授業計画 【第8回】	メディアリテラシーを考えるその2 ○画像資料								
授業計画 【第9回】	メディアリテラシーを考えるその3（デジタル発信、地域資源） ○デジタルの力を活用するには ○「地域資源」をどうやって活用発信するのか								
授業計画 【第10回】	メディアリテラシーを考えるその4（非文字資料） ○「千の風」への問い ○「ファミリーヒストリー」の分析 ○「サマーウォーズ」の面白さとは								
授業計画 【第11回】	メディアを使った展示制作 ○取材する側の見方を意識する ○展示製作の禁忌手とは ○誰にでも見やすい展示とは								

授業計画 【第12回】	各メディアを駆使した展示実践その1 ○宮崎県立図書館企画展「武士の本棚」
授業計画 【第13回】	各メディアを駆使した展示実践その2 ○宮崎県立図書館企画展「ぶらぶら日向路」
授業計画 【第14回】	各メディアを駆使した展示実践その3 ○宮崎県立図書館企画展「ぶらぶら日向路Ⅱ」
授業計画 【第15回】	まとめ ○講義全体を振り返り、重要なポイントについて説明する。
授業の到達目標	各メディアの持つ特性・限界を認識するとともに、実際の展示実践から、机上の理論では学べない経験則を導き出し、共有する。その上で、組織としての博物館や、学芸員としての社会的使命を自覚し、社会一般に対して、展示やその他の活動を通じて能動的に発信できる人材となること。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	事前の予習は特に設定しない。
授業時間外の学修 【復習】	講義で配布された資料と、講義をノートした内容を復習しておくこと（1時間）。また、機会をとらえて自ら博物館等に足を運び、展示を作る側の視点から観覧してみる（1時間）。
課題に対する フィードバック	試験またはレポートについては、評価後返却および解説を行う。
評価方法・基準	試験またはレポート提出（100点）。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	特に指定なし。
備考	講義中、自分が重要と思う点については、指示がない場合でもメモやノートを取るように心がけること。 別府大学において学芸員資格取得。別府大学大学院（修士課程）修了後、宮崎県内自治体の市史編さん事業（日向市、都城市、西都市）に関わる。県公文書館（大分県）においては、近現代史料の整理と企画展示を担当。都城市文化財課においては、都城島津家史料群の目録調査（文化庁補助事業）に従事し、県立図書館（宮崎県）では、郷土情報担当として佐土原島津家史料、上代日向研究所蔵書をデジタルアーカイブ公開のために整理し、また企画展示を担当した。現在、都城島津邸の都城市所有・寄託史料活用調査事業（文化庁補助事業）において史料調査と整理を行っている。